

牧師所感： 教え子の決意を回想する

筆者は1989年より2003年まで、東京の町田に所在する桜美林大学で非常勤講師として学生を教えた。桜美林大学を定年で退くと共に、在日大韓基督教職をも退職、また東京中央神学校の教授退職と、人生の終りが来たかと思えた。

ところが主なる神様は筆者を哀れみ、千葉県の八街市に教会堂を建立して、二十数年間を牧会するお恵みを下された。この二十数年間、日本の牧会者に支えられて、余生を有意義に送ることが出来たことを感謝している。

だが今は齢を取って死期が近付くことになり（91才）、身の回りを整理することとなった。ところが意外ではあるが、桜美林大学で教えた教え子の感想文を読むことになった。

筆者が牧師であり、韓国人であるので、日韓友好の為の講義を幾度することになった。その時筆者の講義を聞いた学生がクリスチャンもいて、日韓和解に关心を持っていたと知る。はからずも、その昔（その時）の感想文を読むことになったので、その時の感想文をここに掲載してその学生を祝福する所存である。

先生の情熱的なしゃべりに 最初から 最後まで ひきこまれてしまいました。

私は将来、国際社会に出て働きたいと思っている人間です。名前の話から始めて、それぞれの国の人々の国民性を尊重することが どれだけ大切なことかということか ほんの少しだけ分かたに気かします。

それから、2次大戦が終わった後の 日本と韓国のかくしゃくした関係を改善していく切り口を

韓国人である先生から 常にここで見つけて いける気がしました。私はクリスチャンで、自分の仕事に自分の信仰を反映させていくという夢を持っています。

こういう所で、自分の将来に役立つことが 学べるということを とても うれしく思います。

次の講義も 楽しみにしています。

うらへ →

英・中・言・健・総 経・商・国・ビ・院 (どれか□印)	学籍番号	年 組 番
	姓 名 小栗 篤子 おぐり ひろこ	得点 4/13(木)
00.3 30.000		